

早期退院と 母乳育児確立との関係

高知ファミリークリニック

細川 志乃

小松 延江

福永 寿則

研究目的 方法

[目的]

分娩後の早期退院は母乳育児確立のためには望ましくないと言われている。当院の分娩後の入院日数は、日本のBFH68施設のいずれよりも短い日数であった。そこで、当院における早期退院と母乳育児確立との関係を検討した

表1. 分娩後の平均入院日数

	BFH 68施設 2013年		高知ファミリー クリニック
	平均	範囲	2014年平均
経膣分娩初産	6.2	4.8-8.2	4.5
経膣分娩経産	5.6	4.1-7.6	3.9
帝王切開	8.5	5.5-13.2	5.2

『「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」データブック』(2013年)から

表2. 健常新生児の1ヶ月健診時母乳率

	BFH診療所 18施設 2013年		高知ファミリー クリニック
	平均	範囲	2014年
1ヶ月母乳率	90.9%	82.6-96.3	86.1%

『「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」データブック』(2013年)から
(診療所1施設を除く)

[対象と方法]

2014年の当院分娩527件の内、経膣分娩健常新生児432名(82.0%)を対象とし、カルテからデータを抽出し検討した。

内訳: 初産 206名(47.7%)、経産婦226名(52.3%)

結果と考察

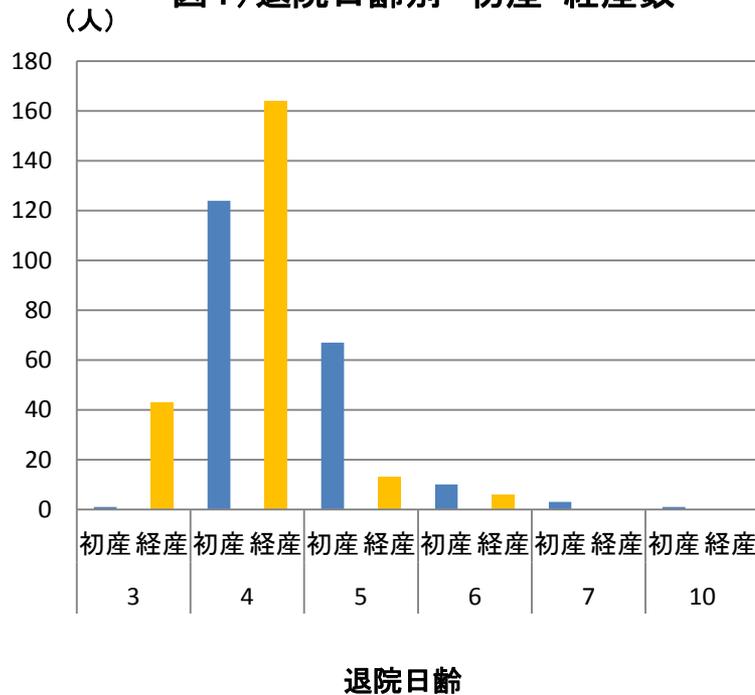
[退院日齢と、1ヵ月健診時母乳率]

分娩後入院日数は経膈分娩の場合4日を基本としているが、実際の入院日数は初産81名(33.9%)、経産の19名(8.4%)が退院を5日以降に延期。

表3. 経膈分娩健常新生児の、退院日齢別の初産・経産数とそれぞれの1ヶ月健診時母乳率

退院日齢	初産・経産数		1ヵ月母乳率	
	初産	経産	初産	経産
3	初産	1	0.5%	100.0%
	経産	43	19.0%	95.2%
4	初産	124	60.2%	89.5%
	経産	164	72.6%	92.0%
5	初産	67	32.5%	67.2%
	経産	13	5.8%	91.7%
6	初産	10	4.9%	60.0%
	経産	6	2.7%	83.3%
7	初産	3	1.5%	100.0%
	経産	0	0.0%	
10	初産	1	0.5%	100.0%
	経産	0	0.0%	
計	初産	206		81.1%
	経産	226		92.5%
全体		432		86.9%

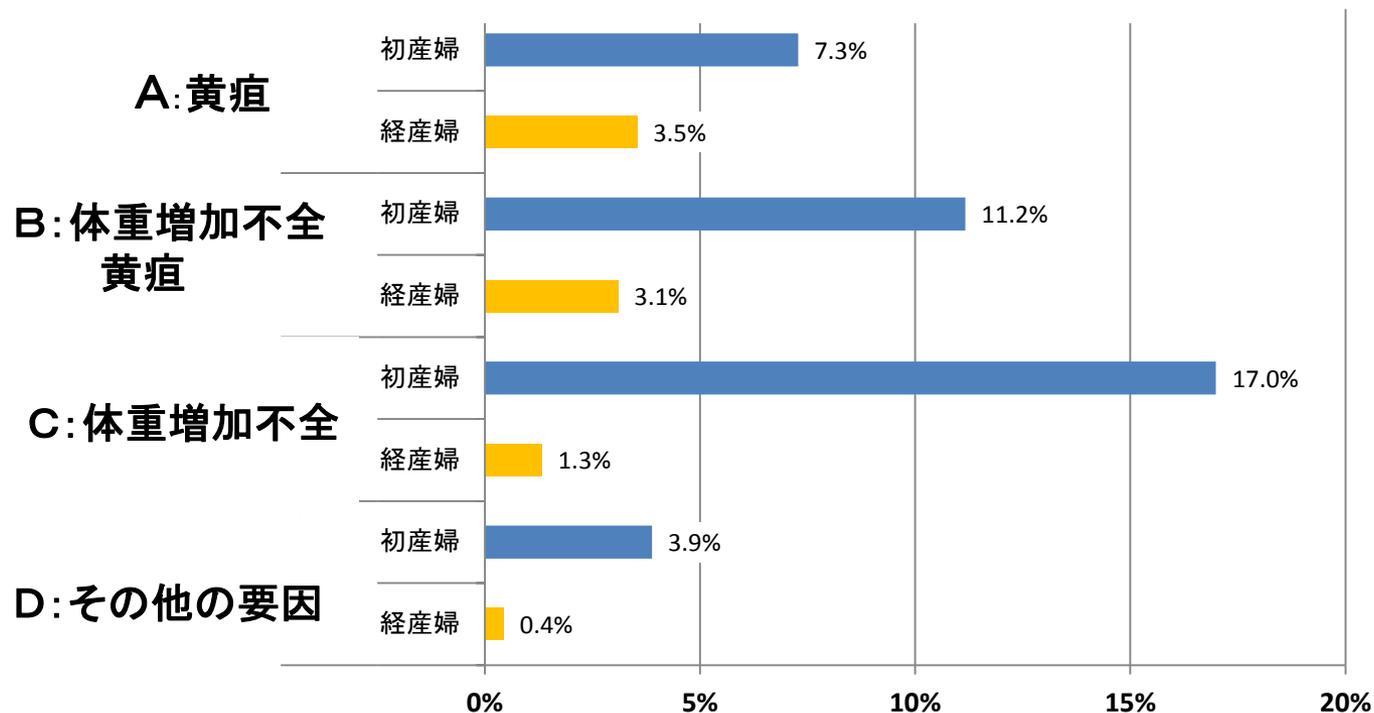
図1) 退院日齢別 初産・経産数



[退院延期理由]

退院を5日以降に延期した初産81名、経産19名について検討した。

図2)退院延期理由



(その他の理由の内訳) 母の高度貧血4名、母の排尿困難1名

母の体調不良1名 児の何となく活気不良1名、異常なく母の希望1名

体重増加不全の合計(B+C)が初産では28.2%と、経産の4.4%と比べると有意に多い(p<001)。

【退院延期理由別の1ヶ月健診時母乳率】

初産81名では理由A 93.3%、理由B 56.5% 理由C 60.0% 理由D 87.5%であり、やはり体重増加不全のみられたB、C群の1ヶ月健診時母乳率は低値であった。経産19名も同様であった。

表4. 退院延期理由別の1ヶ月健診時母乳率

			1ヶ月健診時栄養					1ヶ月母乳率
			母乳(直母)	直母+搾母	混合	人工乳	統計外	
初産	退院延期理由							
	A:黄疸	15	14		1			93.3%
	B:体重増加不全・黄疸	23	12	1	10			56.5%
	C:体重増加不全	35	19	2	14			60.0%
	D:その他(母の要因など)	8	6	1	1			87.5%
	計	81	51	4	26	0	0	67.9%
経産	退院延期理由							
	A:黄疸	8	8					100.0%
	B:体重増加不全・黄疸	7	5		1	1		71.4%
	C:体重増加不全	3	2				1	66.7%
	D:その他(母の要因など)	1	1					100.0%
	計	19	16	0	1	1	1	84.2%
合計		100						

【退院時に母に指示した栄養方法別の1ヶ月健診時母乳率】

表5. 退院延期した症例の、退院時に指示した栄養方法別の1ヶ月健診時母乳率

			1ヶ月健診時栄養					1ヶ月母乳率
			母乳(直母)	直母+搾母	混合	人工乳	統計外	
初産	退院時指示栄養	初産婦						
	E: 母乳(直母)	52	43	1	8			84.6%
	F: 直母+搾母	7	2	3	2			71.4%
	G: 混合	22	6		16			27.3%
	H: 人工乳	0						
	計	81	51	4	26	0	0	67.9%
経産	退院時指示栄養	経産婦						
	E: 母乳(直母)	16	15				1	100.0%
	F: 直母+搾母	0						
	G: 混合	3	1		1	1		33.3%
	H: 人工乳	0						
	計	19	16	0	1	1	1	88.9%
	合計	100						

上記表より退院時には直母のみになって退院してもらうことが重要と思われる。また、退院時直母以外の32名の内、1カ月健診時栄養が直母以外であった23名は退院後1カ月健診まで外来でもフォローできており、入院日数をさらに2～3日延長しても母乳率の明らかな改善は見られなかったのではないかとと思われる。

【1ヶ月健診時人工乳補足理由】

経膈分娩健常新生児 432名(1ヶ月健診受診者429名)の内、1ヶ月健診時栄養が「混合」あるいは「人工乳のみ」であった56名(13.1%)について検討した。

表6. 1ヶ月健診時人工乳補足理由

1ヶ月健診時人工乳補足理由		／429	
体重増加不全	38	8.9%	計39名
乳頭痛	1	0.2%	
児の啼泣が強い	7	1.6%	計 17名
児が眠らない	2	0.5%	
人に預けた	3	0.7%	
母の意欲が少ない	4	0.9%	
記載なし	1	0.2%	
計	56	13.1%	

補足理由の内「体重増加不全」と「乳頭痛」の計39名の多くは、こちらから人工乳補足を指示したものである。

しかし、その他の17名(4.0%)**(I群)**は、退院時には順調に直母のみで退院となっており、いわば母の母乳育児に対する意識不足によるものであった。

補足理由が「体重増加不全」であった38名中9名(9/429=2.1%)**(J群)**は、入院中は直母のみで体重も順調に増加し、退院前日の24時間も直母のみであった症例である。この9名は入院日数を数日延長し母乳育児に習熟してもらえば、退院後も順調に経過した可能性はある。

残りの30名(=56-17-9)(7.0%)**(K群)**は、入院期間を延長すればいくらか改善する可能性もないとは言えないが、先に示したように退院後外来でのフォローもしており、入院期間だけの問題ではないと思われた。

このK群については、妊娠後期における積極的な乳管開通操作が有効な対策の一つではないかと思われる。

【分娩後入院日数、健常新生児数と1ヶ月健診時母乳率】

『「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」データブック』の2013年のデータで、BFH診療所18施設（1施設除外）の、経膈分娩初産の分娩後平均入院日数、健常新生児数、健常新生児の1ヶ月健診時母乳率の関係をみた。

図3) 分娩後入院日数と1ヶ月母乳率

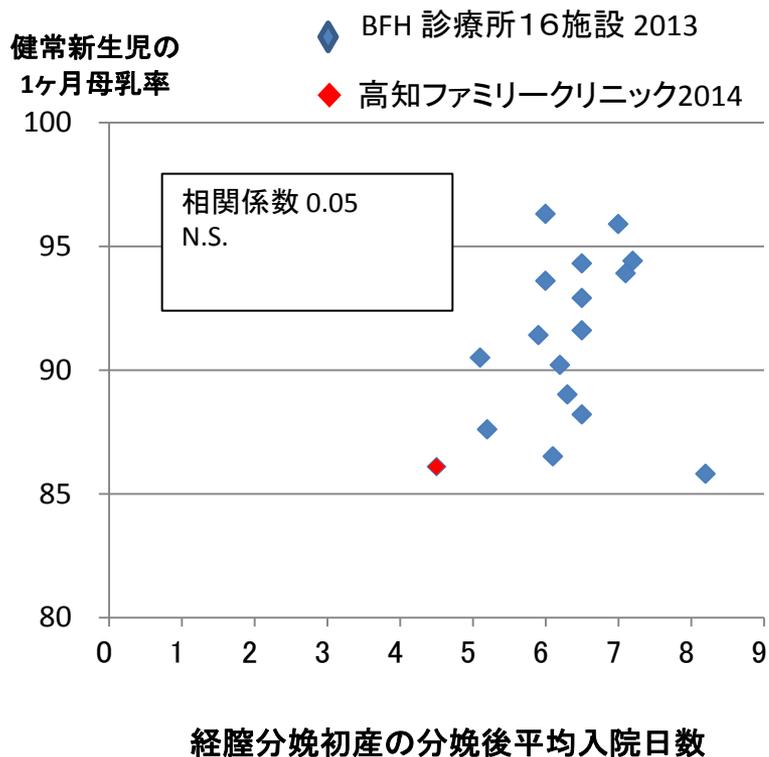
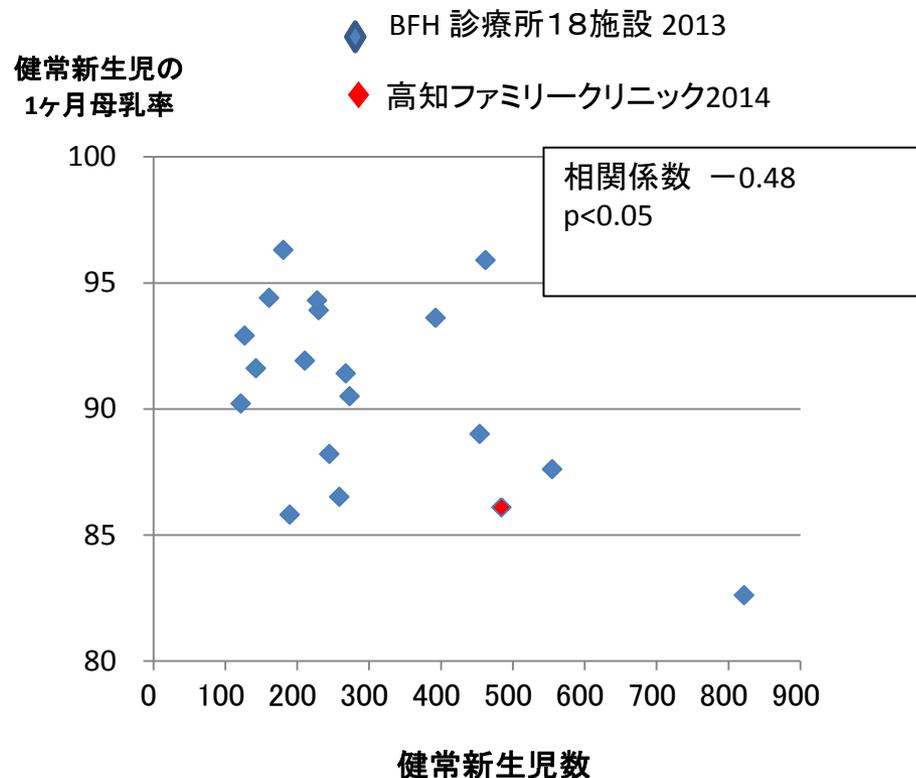


図4) 健常新生児数と1ヶ月母乳率



結 論

1. 当院の分娩後の入院日数は、日本のBFH68施設よりも短い日数であった。
2. 当院の健常新生児の1ヶ月健診時母乳率は 86.1%であった。
3. 経膈分娩健常新生児(1ヶ月健診受診者429名)で、1ヶ月健診時栄養が「混合」あるいは「人工乳」であった56名(13.1%)の内

- ① 17名(4.0%)は、母の母乳育児に対する意識・意欲不足によるもの
- ② 9名(2.1%)は、入院日数を数日延長し、母に母乳育児に習熟してもらえれば、退院後も母乳のみで順調に経過した可能性はある。
- ③ 30名(7.0%)は、単に入院期間の問題というよりも、母乳分泌を促進する支援(妊娠後期の乳管開通操作など)の充実が必要と思われた。



4. 限られたベッド数で多くの分娩を扱うため、早期退院を余儀なくされる現状においては、経膈分娩は日齢4での退院を基本とし、個々の母子の状況により退院を1~2日延長し、その後は外来でフォローする、という当院の方針は、母乳育児推進において、それほど大きなマイナス要因にはなっていないと思われた。